



25ansが目指す  
たっぶりビューティのお手本

かたせ梨乃さん特別インタビュー  
なぜ彼女は「この堂々オーラ」を纏うことができたのか?

25ansが考えるたっぶりビューティのお手本とすべき女性のひとりが、女優のかたせ梨乃さん。編集部がかたせさんをたっぶりビューティとしてリススペクトするのは、その日本人離れたグラマラスボディの持ち主であること以外に、「何があっても私は私」という唯一無二な堂々たる存在感を確立している点にあります。なぜ彼女がこの堂々としたオーラを身につけることができたのか?そしてたっぶりビューティの本質とは何か?を、このインタビューを通して探ります。

かたせ 梨乃  
かたせりの●女優。獨協大学外国語学部英語学科在学中にCFモデルとしてスカウトされる。テレビドラマ「大江戸捜査網」で女優デビュー。以後、個性的な存在感と確かな演技力で数々の映画に出演。代表作「極道の妻たち」シリーズ、「吉原炎上」、「肉体の門」など。現在は東レの水着ブランド「プリティピカピカ」のプロデューサーとしても活躍中



Rino  
Katase

ドレス ¥997,500 (クリスチャン ディオール) イヤリング ¥1,669,500、チョーカー ¥3,979,500 (2点共にフレッド/LVMHウォッチ・ジュエリー・ジャパン フレッド ディヴィジョン)

ださるのには光栄ですね。おそらく独自のオーラとか堂々とした存在感というものは、自分の価値観をベースに自分自身をプロデュースしていくという姿勢がないと、育まれていかないものではないかしら。仮に多くの日本女性が、「厳しくストイックに自分磨きにいきなさい」といっているにもかかわらず、絶対的存在感に欠ける」というのであれば、それは自分では何もしなくても、美しい結果だけを求めようとしているからなのかもしれません。●そんな生き方って、すごく自分に過保護。結果を得ようと思うなら、一度自分と真剣に向き合って、自分という人間をよく知って、そこから自分をどういう方向にプロデュースしていきたいか見極め、実際自分の頭と足を動かして行動していかなくては……。結果が出るまでにすごく時間もかかるし、当然、失敗するかもしれないし、リスクだって背負わなくちゃいけない。でも、そんなプロセスを経るではじめて、オリジナリティとか独自の存在感は生まれるものでないでしょうか？ ●例えば私が大好きな服の話をお願いします。「今日のかたせさんのファッションって、かたせさんらしいスタイルがありますね」などと言われると、嬉しくなってしまうのですが、そんな着こなしをするためには、手間や時間、気合が必要になります。服ってその時々が出合いが重要で、欲しい時に欲しい服が見つかるものではないでしょうか？ だからこまめに自分の足で、似合いそうな服をチェック

## かたせさんの たっぷりビューティの秘密

**食事:**制限は一切していない。シャンパンも年間約150本は消費。ただし情性で食べることは避けている。**運動:**30歳過ぎから水泳を始めた。現在も週5回、1回1kmほどを泳ぐ。「変な筋肉がつかないように、初心者は必ずよい指導者につくこと」とかたせさん。**スキンケア:**エステ、ローダーのリニュートリブシリーズを愛用。「常に乾燥をさせないことが肌にはいいみたい。水泳後、クリームを顔から全身にかけて塗って、サウナに入るとしっとりする」そう。**ヘアケア:**細くて切れやすい髪質だが、クリアトゥール・ウチノ(☎03-5412-8182)で定期的ヘアエステを受けるようになってから、強い髪に変わって長く伸ばせるようになった

目指せ!  
たっぷりビューティ  
インタビュー編

ドレス¥249,900、チョーカー¥1,260,000、ペンダント¥766,500(すべてエスカダー/エスカダージャパン) 靴¥94,500(Rene caovill/ストラスブルゴ 表参道店)

「日本女性って結局のところ  
自分に甘いって思うことがあるわ」



れて、動いた時の布の表情が自分に似合うかどうかでもチェックしないとダメ。さらにその服と自分をいっしょに美しく見せる下着や靴、アクセサリー選びにも手は抜きたくない……。最初からマニュアル通りに服を選べばそれなりに素敵に見えるし、簡単なんでしょうけれど、私はやっぱりそれはできない。オリジナリティとか自分らしさということに、とことんこだわってしまっただけ。●でも、何かを達成しようとして回り道しながら模索するその過程こそ、人生の醍醐味とか、その人自身を大きく成長させるためのエレメントが詰まっているんだと、最近感じます。だから回り道とかリスクを、皆さんも楽しんでほしい。たとえ壁にぶち当たったとしても、それと立ち向かって何が解決すれば、その人にとって素晴らしい経験になるはずだし、次にそんなリスクがやってきても「もうその手にはおかない」ってね返すこともできるでしょう。●かくいう私ですが、「他人の物真似でない」とか「自分のオリジナリティ」という価値観で物事を押し通せるようになったのは最近になってからなんです。それこそグラビアでデビューした時は「肉体派」ということで水着姿を披露していたけれど、実際はメリハリのありすぎる身体が周りから妙に浮いてしまっている気がして恥ずかしくてたまらなかつたし、ダイエットもやりましたね。今なら「あのスタイルこそ私らしさ」と言い切ってしまう「強さ」も生まれているんですけど。40歳になるまでは、大きな胸が目立ってしまうのもイヤで、猫背気味だったし、洋服も衿の詰まったタートルだとかスワッドとか端正なものを好んで着ていたくらい。けれど最近はこの胸も胸もとの開いたソフワを着ると、これまでになくしっくりと馴染むようになりました。自分自身の胸もとの違和感がなくなったことで、ソフワもこれまで以上に堂々とこなせるようになった気がします。●話はちよっと脱線しますが、以前、インドを旅行した時、キヤッアイを購入し、帰国してから指輪として加工したのですが、石の存在に自分が飲み込まれてしまっていて、全然似合わない。ダイヤモンドやエメラルドは克服できたと思っているんですが、この石は本当に難しい。60歳までにはキヤッアイを堂々オーラでつけられる女性になりたいですね。●がむしゃらに突っ走ってきた30代までよりも、気負うことなく自分らしい生き方ができるようになりつつある今、私の人生の核となる女優という仕事においても、以前とは違った可能性に向かって挑戦していきたいです。どんな役柄がきても、堂々と演じ切りたいですから、そのための準備は常におきたいと思っています。例えば水泳。30歳過ぎてから始めたのですが、これはプロポーション維持だけでなく、基礎体力づくりにも有効。今も週5日、1日1km泳いでいますが、これからも継続していくつもりです。また、今の日本ではリアリティがないかもしれないけれど、美しい日本語や美しい所作を、意識して習得しておくことも大切だと考えています。人間、その場で取り繕おうと思っても、なかなかそうはいかないもの。だからこそ堂々としたたっぷりビューティの有り様と、共通するのではないのでしょうか？